

(1) 個別の指導計画とは ～なぜ作成するのか、どう作成するのか～

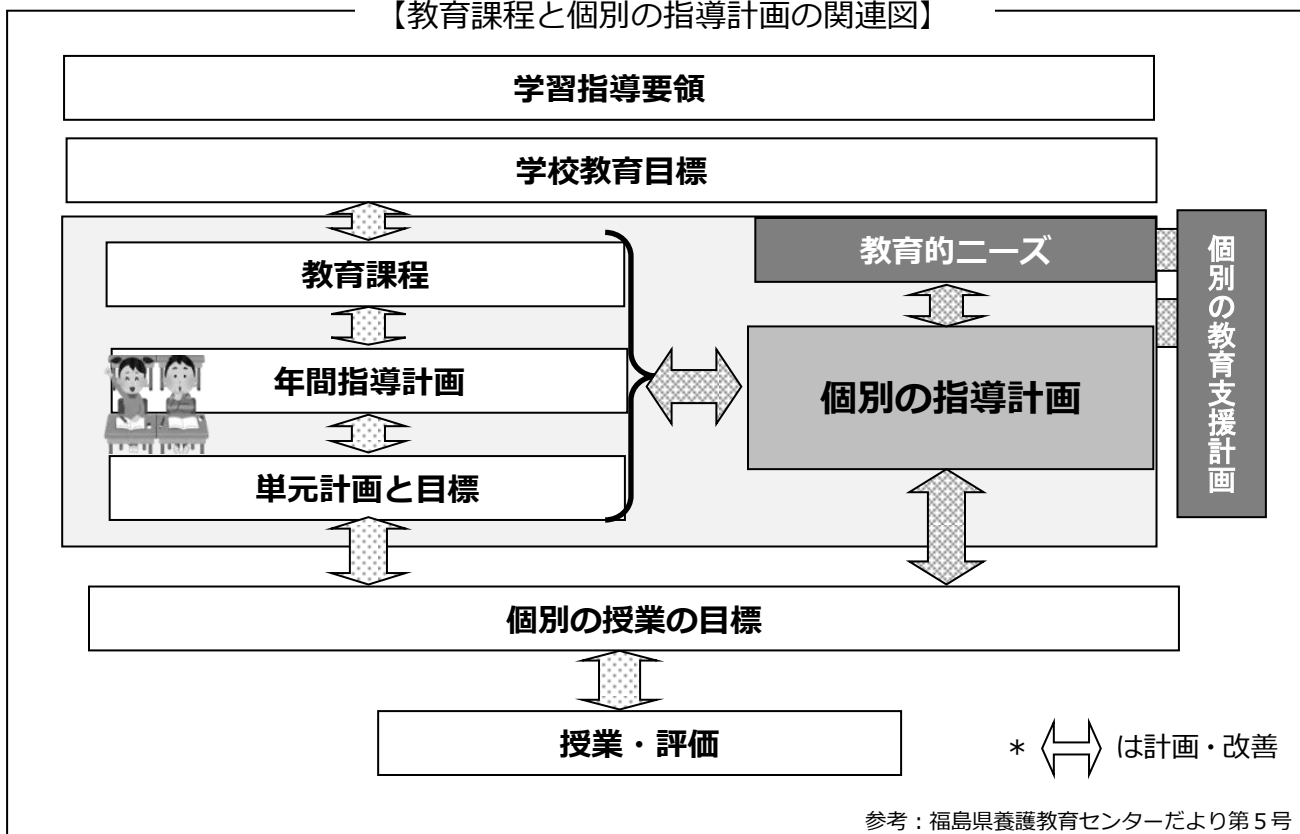
(a) 「個別の指導計画」とは ～なぜ、作成するのか～

平成29年7月に示された「小学校学習指導要領解説総則編」「中学校学習指導要領解説総則編」、平成30年7月「高等学校学習指導要領解説総則編」では、次のように述べられています。

個別の指導計画は、個々の児童（生徒）の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある児童（生徒）など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

*（生徒）は中学校、高等学校学習指導要領の際の表記

【教育課程と個別の指導計画の関連図】



(b) 「個別の指導計画」を作成する対象は？

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領解説総則編によれば、次のように整理できます。
(高等学校では、①は通級による指導を受ける生徒、②は下記と同様の記述があります。)

- ① 特別支援学級に在籍する児童（生徒）や通級による指導を受ける児童（生徒）については、これまでの実績等も踏まえ、全員について作成すること
- ② 通常の学級において、通級による指導を受けていない障害のある児童（生徒）などの指導に当たっては、二つの計画^{*1}の作成、活用に努めること

*（生徒）は中学校学習指導要領の際の表記

* 1 個別の教育支援計画と個別の指導計画のこと。



個別の指導計画について、どんな内容を書いたらいいのか、なんだか
はつきりしないのですが。
一つの形式だと、書きやすい子もいれば、書きにくい子もいて、活用
しにくいです。どのように作成していいか悩みます。

(c) 学習指導要領における個別の指導計画の作成の記載内容について (一部)
～どう作成するのか～

小学校、中学校の学習指導要領解説総則編には、個別の指導計画について次のように記載されて
います (抜粋)。

【①自立活動の指導の効果が最もあがるようにするための計画作成】

*例☆②『(A)パターン』を参照

(手順の一例)

- a 個々の児童 (生徒) の実態を的確に把握する。
- b 実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連を整理する。
- c 個々の実態に即した指導目標を設定する。
- d 特別支援学校学習指導要領小学部・中学部学習指導要領第7章第2の内容から、個々の児童 (生
徒) の指導目標を達成させるために必要な項目を選定する。
- e 選定した項目を相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。

*高等学校の学習指導要領解説総則編に同様の記載があり、通級による指導を行う場合に、「特別支援学校高等部学習指
導要領第6章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め指導を行うものとする。」とされています。

【②各教科等の指導に当たって、一人一人の実態等に応じた具体的な指導目標や指導内容を設定す
るための計画作成】

*例☆③『(B)パターン』を参照

特別支援学級における各教科等の指導に当たっては、適切かつ具体的な個別の指導計画を作成する
ものとする。また、各教科の一部又は全部を、知的障害者である児童 (生徒) に対する教育を行う特
別支援学校の各教科に替えた場合、知的障害者である児童 (生徒) に対する教育を行う特別支援学校
の各教科の各段階の目標及び内容を基にして、個別の指導計画に基づき、一人一人の実態等に応じた
具体的な指導目標及び指導内容を設定することが必要である。

*高等学校の学習指導要領解説総則編では、この記載はありません。

【③教科等の指導における配慮を記載するための計画作成】

*例☆④『(C)パターン』を参照

今回の改訂では、総則のほか、各教科等の指導において「第3指導計画の作成と内容の取扱い」
として、当該教科等の指導における障害のある児童 (生徒) などに対する学習活動を行う場合に生
じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが規定された。このこ
とを踏まえ、通常の学級に在籍する障害のある児童 (生徒) 等の各教科の指導に当たっては、適切
かつ具体的な個別の指導計画の作成に努める必要がある。

*高等学校の学習指導要領解説総則編に、同様の記載があります。

上記の記述から、**何の目的で作成し、活用する個別の指導計画か**、その目的に着目
する必要があります。目的が異なるために、活用しにくいこともあったのではないか
と思います。子どもたちのために、本人の学びを保障し、きめ細やかな指導で力を最
大限に伸ばしていくために、個別の指導計画があります。

参考：個別の指導計画 (例) について、☆②『(A)パターン』、☆③『(B)パターン』、☆④『(C)パター
ン』を掲載しました。なお、通常の学級の先生方向けの☆⑤『(D)パターン』も掲載しています。



(2) 個別の指導計画の活用

～いつ活用するのか？目的にあった計画の活用へ～



「個別の指導計画を活用していますか？」と言われますが、作成はするけど、なんだか「活用」しにくいケースもあります。

(a) 「個別の指導計画」の活用にあたって ～目的に着目する！～

平成29年7月に示された「小学校学習指導要領解説総則編」「中学校学習指導要領解説総則編」、平成30年7月「高等学校学習指導要領解説総則編」では、次のように述べられています。

個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある児童（生徒）など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

*（生徒）は中学校・高等学校の学習指導要領の際の表記

第Ⅲ章－4－（1）『個別の指導計画とは』で紹介したように、個別の指導計画といっても、それぞれの目的に応じたものが求められています。つまり、**指導の目的にあった個別の指導計画を選ぶことで、活用がしやすくなります。**

<目的ごとの活用例>

① 自立活動の指導の充実 （☆②） (A) パターン参照	
【活用場面】 ○自立活動の時間、教育活動全体 (授業準備、記録、評価等)	☆障がいによる困難さを改善・克服するために実態把握から課題設定までの過程が分かる。 ☆指導すべき課題を引き継ぎ、継続した指導が可能になる。
② 各教科等の指導にあたっての指導目標や指導内容の充実 （☆③） (B) パターン参照	
【活用場面】 ○下学年の教科等の指導 ○知的障がいの教科等の指導 (個々の指導目標、指導内容)	☆下学年等の各教科の指導での指導内容等が明確になる。 ☆知的障がいの教科の指導で、 各段階に基づいて 、個々の指導目標、指導内容が明確になる。 ☆学習の履歴が確保され、次の指導の手かかりとなる。
③ 各教科等の指導における配慮の充実 （☆④） (C) パターン参照	
【活用場面】 ○教科学習等の指導 (本人の困難さ等に対応した指導の意図や手立て、指導方法等)	☆通常の学級においても、児童生徒の各教科等で生じる困難さに応じて計画的・組織的に指導内容や指導方法の工夫ができる。 ☆教科担当制等でも、必要な配慮について共通理解を図ることができる。
④ 生活全般における指導の充実 （小・中学校の通常の学級、高等学校）（☆⑤） (D) パターン参照	
【活用場面】 ○学校生活全般 (生活習慣や人間関係、社会性等) * 自立活動の指導がない場合	☆基本的な生活習慣や対人関係等、学校生活全般において、本人に個別に必要な指導を計画し、実施することができる。 ☆自立活動の指導に取り組んでいる訳ではないことから、シンプルな形式で作成し、継続した指導を重視する。

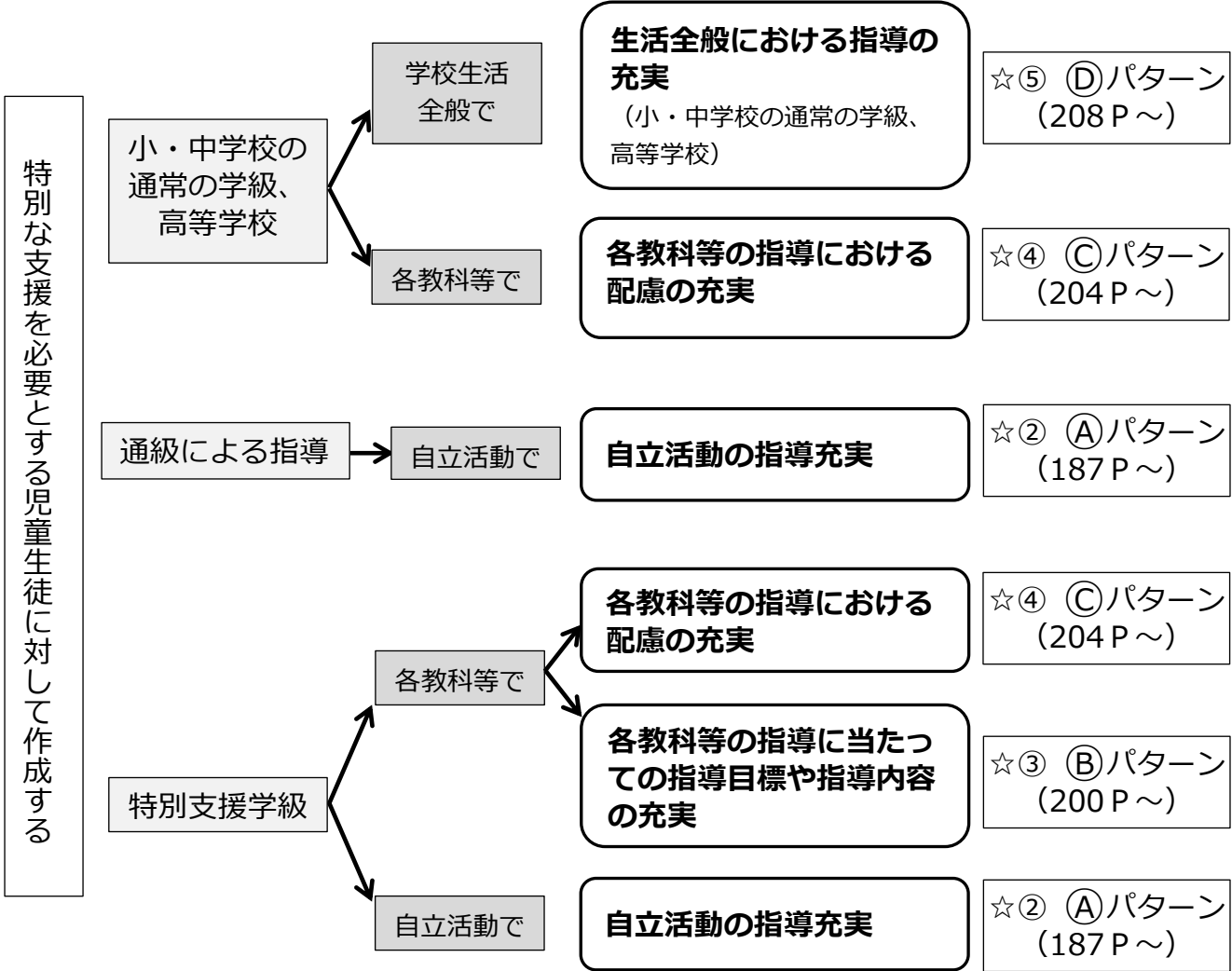
個別の指導計画は、一人一人の学習の履歴にもなります！

☆ 個別の指導計画 (例) の作成・活用チャート ～たくさんあるけど、結局どれが活用しやすいの?～



今回、たくさんの個別の指導計画 (例) が出されているけど、結局どれを使えばいいのか分かりません。

大切なのは、何の目的で活用する個別の指導計画なのか、ということになります。下のようにまとめましたので、参考にしてください。
* 目的に応じた指導計画の説明として、第三章-4-(1)(2)(182~184p) をご覧ください。



目的にあった個別の指導計画を作成することが、活用しやすい第一歩です。
今回、紹介した例は、小学校・中学校学習指導要領解説 (H29. 7) の内容を参考に作成しています。

information

「個別の指導計画（例）」は、
福島県特別支援教育センターWebサイトから
ダウンロード！



QRコードで
すぐアクセス！

URL : <https://special-center@fcs.ed.jp/>

A

☆ 自立活動の指導のための個別の指導計画

○小・中学校学習指導要領に示されている作成手順の一例

平成29年7月に示された小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、次のように述べています。

個別の指導計画の作成の手順や様式は、それぞれの学校が児童（生徒）の障害の状態や発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの実態を的確に把握し、**自立活動の指導の効果が最もあがるように考えるべき**ものである。

したがって、ここでは、手順の一例を示すこととする。

(手順の一例)

- a 個々の児童の実態を的確に把握する。
- b 実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連を整理する。
- c 個々の実態に即した指導目標を設定する。
- d 特別支援学校学習指導要領小学部・中学部学習指導要領第7章第2の内容から、個々の児童（生徒）の指導目標を達成させるために必要な項目を選定する。
- e 選定した項目を相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。

* (生徒) は中学校学習指導要領の際の表記

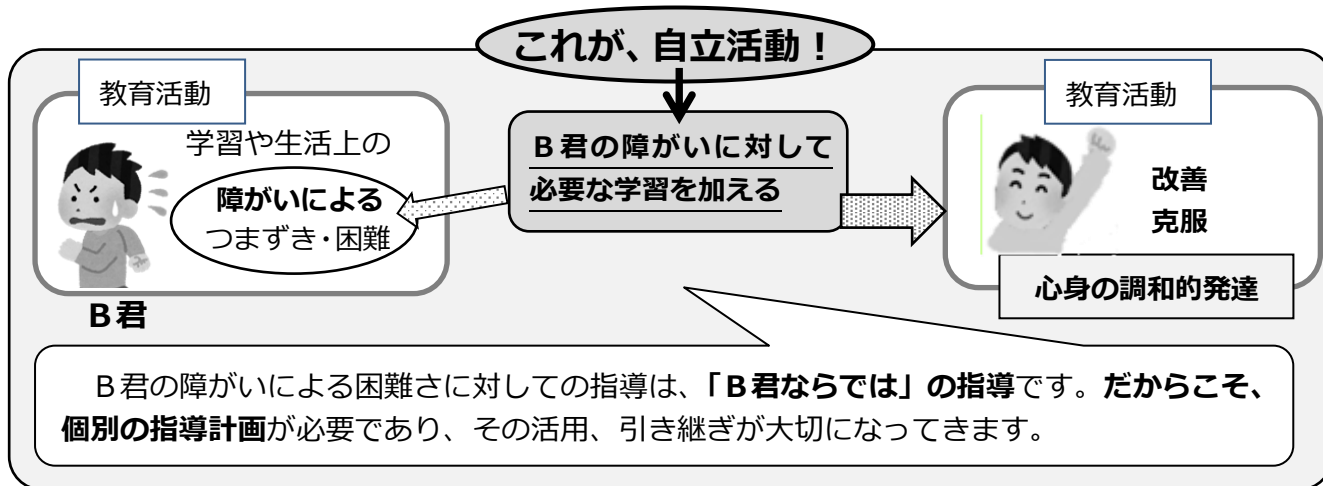
* 下線は本資料作成に当たって福島県特別支援教育センターにおいて追記

○自立活動って何？

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

* 引用：「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章自立活動」



新学習指導要領に対応した考え方を盛り込んだ計画(例)を掲載しました。

ここでは、2種類の例を示します。

A-1タイプ・・・自立活動の考えを踏まえ、丁寧に指導内容まで考える形式です。

A-2タイプ・・・自立活動の考えを踏まえ、1枚程度で計画します。

* 各学校で活用しやすいように、自由に加筆、訂正、修正して活用ください。

個別の指導計画 (自立活動)

A-2 様式例

氏名 学年 障がい名等 作成日

【実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連の視点から】

今、指導すべき目標

その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える！

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション



指導内容			
場面指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導
評価			

【次年度に向けた引き継ぎ】

* 様式例は、福島県特別支援教育センターWeb サイトから Word 版をダウンロードすることができます。

A-1 ☆ 自立活動の指導のための個別の指導計画 (例) ~A4・2枚型~

氏名 障がい名等 作成日

1 個々の実態を的確に把握する

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

情報として整理しなくて構いません。
思いつく形で入れていきましょう。

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
情報を6区分で整理します。どう整理したらよいか悩む場合は第三章-4(3)②-2『自立活動の指導のための早見表(例示)』(198p)をご覧ください。					

収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理

児童生徒の生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れた整理です。例えば、「〇〇年後の姿」をイメージしたり、卒業までにどのような力を、どこまで育むとよいかを想定したりして整理します。

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

【課題同士の関連】

収集した情報収集から、課題同士の関連等を考えます。関連図を視覚化したい場合は、第三章-4(3)②-1『実態把握情報収集シート』を使って、関連する課題同士を線でつなぐと、関連が見やすくなります。

【指導すべき課題】

課題同士の関連を考えることで、課題となる行動の背景、原因が予測できます。それが、障がいによる困難さであり、改善・克服できる課題であれば、指導すべき課題となります。

3 今、指導すべき目標として

指導すべき課題から、本人の実態及び自立活動の指導の場面によって、今、指導すべき目標を決定していきます。
* 個別の教育支援計画との一貫性も確認します。

何の項目が関連しているか、
チェックしていきます。

4 指導目標を達成させるための必要な項目選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

指導内容との関連を図り、線をつなぎます。

指導内容	場合によっては、指導内容が1つや2つの時もあります。		
	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導
評価	指導場面を確認し、○で囲みます。		
	学校や学級等によって、この欄で狭い時、書きにくい時には、別紙にて作成してもいいです。評価の時期(学期、前期・後期、年1回等)も、学校の現状によって決めてください。		
【次年度に向けた引き継ぎ】			

今年度の指導目標はどうだったか、また、指導すべき課題についてもう一度確認することで、次年度以降の継続につながっていきます。

A-1

☆ 記入例

氏名 郡山三郎 学年 小3年 障がい名等 ASD ADHD 作成日 ××年×月××日

1 個々の実態を的確に把握する

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

- ・学級のルール等について、内容は理解しているものの実際の場面になると、自分がやりたいことを優先してしまうことが多い。
- ・教科学習の理解はよく習得も速いが、出し抜けに答えたり、友だちに伝えたりしてしまう。
- ・人や物にぶつかることが多いが、ぶつかったことに気づかないためにけんかになることがある。
- ・昆虫など小動物が好きで、校庭で見つけると捕まえてくるが、突然、友だちの前に突きつけて驚かせる。
- ・体を動かすことは好きだが、球技など道具を操作する活動が苦手で、ゲームの途中で投げ出してしまうことがある。
- ・突発的な発言で友だちを泣かせたことを指摘されても、なかなか謝ることができないことが多い。落ちついてから話すと「泣かせたのは僕が悪かったかもしれない」と言う。
- ・最近、失敗した後に「なぜ、うまくいかないんだろう」と失敗した自分を責めるような場面が見られる。
- ・役割を与えられたり、取組を認められたりすると熱心に活動する。

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・失敗した後に、自分を責めて不安定になることが多い。	・他者とかかわりたい、役立ちたいという気持ちが強い。 ・落ち着いていれば、相手の心情を理解できるが、その前に行動してしまう。	・聞くより見る方が理解しやすい。 ・周囲の状況を考えることに困難がある。	・人や物にぶつかる。 ・道具をうまく扱えないことがある。	・人に話して伝えることが好きである。 ・相手の立場を意識することが難しく、自分の話題が多い。

収集した情報を3年後(中学進学後)の姿の観点から整理

- ・周囲の状況を理解することの困難さや衝動的に行動してしまうことが、学習面や人間関係に影響することが心配される。
- ・失敗経験が重なると、学習や生活に対して意欲や自信が低下することが考えられる。
- ・状況に応じた行動を理解し、身に付けることで、本人も安心して力を発揮できると考える。

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

【課題同士の関連】

- ・自分の行動がどのような影響を及ぼすかを想像したり、周囲の人の表情や口調等から読み取ったりして、適切に判断して行動することやルールを守ることなどが難しいと考える。
- ・周囲の状況を理解したり、自分の体の動きのコントロールが難しかったりするところから、心理的に不安定になったり、自分ができるところに衝動的になったりすることがあると考える。

【指導すべき課題】

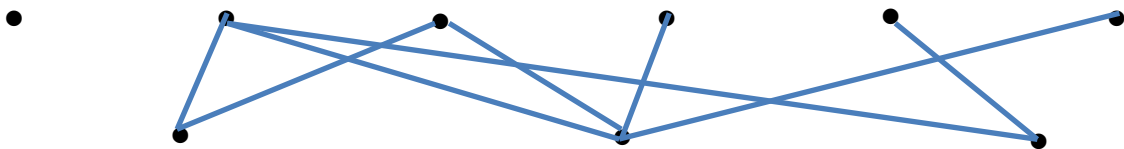
- ・自分が行動している周囲の状況の把握、他者とかかわりや、状況に応じた行動や状況に応じたコミュニケーションが課題であると考えられる。
- ・分かっているにもかかわらず衝動的に行動してしまうこともあることから、自己理解と行動の調整について指導。
- ・自己肯定感が低くなっている様子が見られ、役割を与え、達成できる経験を通して自己効力感を高める。

3 今、指導すべき目標として

- 様々な場面を理解する学習やゲーム的な活動を通して、周囲の状況を把握する力を高めるとともに、状況に応じた言動を理解し、実際に使うことができる。
- ルールを意識して、身体を動かすゲーム的な活動等を通して、身体の粗大運動でのボディイメージをつかんだり、衝動的な行動をコントロールするなどの自己の行動を調整したりすることができる。

4 指導目標を達成させるための必要な項目選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション



指導内容	○小集団において、ルールを守ることやうまくいかなかった時の対応方法などを身に付けるため、簡単なルールのあるゲーム等に取り組む。	○状況に応じた言動を身に付けるために、学校生活の中で起こる様々な場面を絵で見て、その場面の登場人物の気持ちや状況に応じた言動について考えたり、学んだりする活動に取り組む。	○ボディイメージや衝動的な行動を自己調整できる力を高めるために、身体を動かすゲーム等を設定する。
場面指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導
評価	・「連想ゲーム」「スリーヒントクイズ」などに取り組みました。最初は… …次第に、自分が言いたいことがあっても、ルールを守って発言の順番を待ったり、うまくいかない場面でも「まあ、いいか。」と気持ちを切り替えたりすることができました。	・「こんな時どうする」では、「手伝ってほしい場面」を取り上げ… …実際の場面でも、「ごめん、○○君、手伝って。」とやさしく言葉で伝えることが増えてきました。	・「協力ボール運びリレー」「風船バレー」などに取り組みました。最初は… …様々な身体を動かす活動を通して、対象物(ボール等)を見て、動きを合わせて手や足を動かす力が高まってきました。また、友だちと協力する活動を通して…

【次年度に向けた引き継ぎ】

○授業中に出し抜けに答える等の場面が減り、行動調整ができるようになってきた。また、本人が学んだ状況に関しては、状況に応じた言動がとれるようになってきている。ただし、状況に応じた言動については、場面によってどういう行動をしたらよいのかが、そもそも分からない様子が見られたので、引き続き、学校場面を様々な絵を用いて、指導していく必要がある。

個別の指導計画

A-1 様式例

氏名 _____ 学年 _____ 障がい名等 _____ 作成日 _____

1 個々の実態を的確に把握する

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

【課題同士の関連】

【指導すべき課題】

3 今、指導すべき目標として

４ 指導目標を達成させるための必要な項目選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション



指導内容			
場面指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導
評価			
【次年度に向けた引き継ぎ】			

* 様式例は、福島県特別支援教育センターWeb サイトから Word 版をダウンロードすることができます。

☆ **自立活動の指導のための個別の指導計画 (例)**
 ~A4・1枚型~

氏名 _____ 学年 _____ 障がい名等 _____ 作成日 _____

【実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連の視点から】

個別の教育支援計画で集めた本人の情報(困難さ、長所・よさ等)から、課題相互の関連を考え、指導すべき目標までの理由が分かるようにします。

参考：第三章-4(3)②-1『実態把握情報収集シート』、②-2『自立活動の指導のための早見表(例示)』

今、指導すべき目標

整理した情報から、「今、指導すべき目標」を決めていきます。
 * 個別の教育支援計画との一貫性も確認します。

その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える!

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

何の項目が関連しているか、チェックしていきます。

指導内容との関連を図り、線をつなぎます。

指導内容	場合によっては、指導内容が1つや2つの時もあります。		
場面指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導
評価	学校や学級等によって、この欄で狭い時、書きにくい時には、別紙にて作成してもよいと思います。評価の時期(学期、前期・後期、年1回等)も、学校の現状によって決めてください。		指導場面を確認し、○で囲みます。

【次年度に向けた引き継ぎ】

今年度の指導目標はどうだったか、また、指導すべき課題についてもう一度確認することで、次年度以降の継続につながっていきます。

A-2

☆ 記入例

氏名 郡山 三郎 学年 小3年 障がい名等 ASD ADHD 作成日 ××年×月×日

【実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連の視点から】

- ・自分が行動している周囲の状況の把握、他者とのかかわりや、状況に応じた行動や状況に応じたコミュニケーションが課題であると考ええる。
- ・分かっているにもかかわらず衝動的に行動してしまうことから、自己理解と行動の調整について指導。
- ・自己肯定感が低くなっている様子が見られ、役割を与え、達成できる経験を通して自己効力感を高める。

今、指導すべき目標

- 様々な場面を理解する学習やゲーム的な活動を通して、周囲の状況を把握する力を高めるとともに、状況に応じた言動を理解し、実際に使うことができる。
- ルールを意識して、身体を動かすゲーム的な活動等を通して、身体の粗大運動でのボディイメージをつかんだり、衝動的な行動をコントロールするなどの自己の行動を調整したりすることができる。

その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える！

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション



指導内容	○小集団において、ルールを守ることやうまくいかなかった時の対応方法などを身に付けるため、簡単なルールのあるゲーム等に取り組む。	○状況に応じた言動についての身に付けるために、学校生活の中で起こる様々な場面を絵で見て、その場面の登場人物の気持ちや状況に応じた言動について考えたり、学んだりする活動に取り組む。	○ボディイメージや衝動的な行動を自己調整できる力を高めるために、身体を動かすゲーム等を設定する。
場面指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導
評価	・「連想ゲーム」「スリーヒントクイズ」などに取り組みました。最初は… …うまくいかない場面でも「まあ、いいか。」と気持ちを切り替えたりすることができました。	・「こんな時どうする」では、「手伝ってほしい場面」を取り上げ… …ごめん、〇〇君、手伝って。」とやさしく言葉で伝えることが増えてきました。	・「協力ボール運びリレー」「風船バレー」などに取り組みました。最初は… …て手や足を動かす力が高まってきました。また、友だちと協力する活動を通して…

【次年度に向けた引き継ぎ】

○状況に応じた言動については、場面によってどういう行動をしたらよいか、そもそも分からない様子が見られたので、引き続き、学校場面を様々な絵を用いて、指導していく必要がある。

個別の指導計画 (自立活動)

A-2 様式例

氏名	学年	障がい名等	作成日
----	----	-------	-----

【実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連の視点から】

今、指導すべき目標

その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える！

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

●
●
●
●
●
●

指導内容			
場指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導
評価			

【次年度に向けた引き継ぎ】

自立活動 実態把握情報収集シート

健康の保持

心理的な安定

人間関係の形成

環境の把握

身体の動き

コミュニケーション

付せんに児童（生徒）の実態を書き、それぞれの区分で整理します。なお、自立活動の区分に整理することが分からない場合は、☆「自立活動の指導のための早見表（例示）」をご覧ください。実態を整理した後、課題同士の関連を考えてみましょう。

自立活動の指導のための早見表 (例示)

自立活動の指導においては、
『関連付けて指導する』ってあるけど???
何と関連しているの？



子どもたちの行動が、自立活動のどの項目に関連しているか、考えるヒント

となるよう多くの例を集めて早見表を作成しました。

【早見表の見方】

- 小・中学校における特別支援学級（知的障がい、自閉症・情緒障がい）向けを想定しています。
- 児童生徒の実態を自立活動の指導の項目で整理、関連付けて指導していくための参考資料です。

【注意事項】

- 気になる行動（例）では、他の項目と密接な関連がある場合が多く、重複する部分があります。
- あくまでも例示であり、実態把握や項目整理で活用し、課題同士の関連、指導すべき課題、今指導すべき目標と、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説自立活動編で示されている手順で目標や指導内容を決定していきましょう。

* 286 pの注意事項が大切です。

自立活動の指導のための早見表（例示）

	気になる行動（例）	関連項目	指導の内容（例）		気になる行動（例）	関連項目	指導の内容（例）
健康の保持	<input type="checkbox"/> 昼夜逆転生活・睡眠の欠乏または過眠。 <input type="checkbox"/> 偏食、少食・過食がある。 <input type="checkbox"/> 常に長袖または半袖。 <input type="checkbox"/> 不潔な状態（爪、歯、体、髪の毛等）。	生活のリズムや生活習慣の形成	<input type="checkbox"/> 規則正しい生活・睡眠のリズム <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> 衣服の調節 <input type="checkbox"/> 清潔	環境の把握	<input type="checkbox"/> 視力が悪いのに眼鏡をかけない。 <input type="checkbox"/> 支援機器（補聴器等）の管理ができない。 <input type="checkbox"/> ICT等の活用に不慣れ。	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	<input type="checkbox"/> 感覚の補助・代行グッズの活用 <input type="checkbox"/> 操作方法の習得
	<input type="checkbox"/> 自分の病気の理解が難しい。 <input type="checkbox"/> ストレスの要因の理解、対応が難しい。 <input type="checkbox"/> 服薬している薬の理解と管理が難しい。	病気の状態の理解と生活管理	<input type="checkbox"/> 自分の病気の理解 <input type="checkbox"/> ストレスへの対応や発散方法 <input type="checkbox"/> 体調管理		<input type="checkbox"/> 複雑なルールがある活動が苦手。 <input type="checkbox"/> 場面や状況から、やるべきことを見出すことが難しい（整理整頓、掃除等も）。 <input type="checkbox"/> 情報をまとめて判断するのが苦手。	感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関すること	<input type="checkbox"/> 情報を収集していく力 <input type="checkbox"/> 場面や状況を把握していく力 <input type="checkbox"/> 的確な判断や行動
	<input type="checkbox"/> 怪我の痛みが分からない時がある。 <input type="checkbox"/> 自分の身体に関心がない。	身体各部の状態の理解と養護	<input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解 <input type="checkbox"/> 患部の保護 ○身体を養護する力		<input type="checkbox"/> 抽象的概念の理解が難しい。 <input type="checkbox"/> 口頭指示が通りにくく、具体物がないと理解が難しい。 <input type="checkbox"/> 場面に合わない突拍子もない行動をとる。	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	<input type="checkbox"/> 概念の形成 （ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等）
	<input type="checkbox"/> 失敗から、自分を否定的に捉えてしまう。 <input type="checkbox"/> 大きな音がすると不安定になる。	障がいの特性の理解と生活環境調整	<input type="checkbox"/> 自己の障がいの理解 <input type="checkbox"/> 自ら生活環境を整える力		<input type="checkbox"/> 常に、体が動く。椅子に座れない。 <input type="checkbox"/> 起立の姿勢維持が難しい。 <input type="checkbox"/> 運動が苦手（走る、投げる、取る等）。 <input type="checkbox"/> 身体に麻痺がある。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	<input type="checkbox"/> 姿勢保持 <input type="checkbox"/> 姿勢保持のための環境づくり <input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 関節の拘縮や変形の予防
心理的な安定	<input type="checkbox"/> 常に、イライラ、落ち着きがない。 <input type="checkbox"/> 状況が変化すると不安になる。 <input type="checkbox"/> 集団行動が苦手、参加できない。	情緒の安定に関すること	<input type="checkbox"/> 不安要因の解明と適切な対応 <input type="checkbox"/> 興奮要因の解明と適切な対応	身体の動き	<input type="checkbox"/> 必要な補助用具の活用に不慣れ。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	<input type="checkbox"/> 補助用具の適切な選定
	<input type="checkbox"/> 場面や状況の理解が難しい。 <input type="checkbox"/> 急な予定やルール変更の受け入れが難しい。 <input type="checkbox"/> 順番や勝敗、やり方で、パニックになる。	状況の理解と変化への対応に関すること	<input type="checkbox"/> 場面・状況の理解 <input type="checkbox"/> 場面・状況変化への適切な対応		<input type="checkbox"/> 靴ひも結び、ボタン等ができない。 <input type="checkbox"/> はさみ、カッター、定規、分度器、消しゴム等の扱いが不器用。	日常生活に必要な基本動作に関すること	<input type="checkbox"/> 身辺処理を身に付ける <input type="checkbox"/> 学習用具の扱い方 <input type="checkbox"/> 不器用さを改善する用具の扱い方
	<input type="checkbox"/> 興味・関心の偏り。 <input type="checkbox"/> 「どうせ、、、」が口癖。 <input type="checkbox"/> 夢中になることが少ない。	改善・克服する意欲に関すること *一部略	<input type="checkbox"/> 障がいの状態の理解と受容 <input type="checkbox"/> 障がいの改善・克服の意欲向上 <input type="checkbox"/> 生きがい探し		<input type="checkbox"/> 身体的機能上の課題により、一人で移動することができない。	身体の移動能力に関すること	<input type="checkbox"/> 移動能力の向上
人間関係の形成	<input type="checkbox"/> 教師や友達に不信感がある態度。 <input type="checkbox"/> 他者に関心がない。共同での活動が難しい。 <input type="checkbox"/> 双方向の会話、やりとりが苦手。	他者とのかかわりの基礎に関すること	<input type="checkbox"/> 人に対する信頼感 <input type="checkbox"/> 他者の存在の気づき <input type="checkbox"/> 他者とのやりとり（受容と対応）	コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 作業活動に取り組むことが苦手。 （制作、調理等での手先を使った活動） <input type="checkbox"/> すぐに飽きる。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	<input type="checkbox"/> 巧緻性の向上 （目と手の協応、正確さ、速さ） <input type="checkbox"/> 持続力の向上
	<input type="checkbox"/> 教師や友達の言葉の意味や感情の理解が難しい（冗談やことわざも）。 <input type="checkbox"/> 表情や声の調子から相手の感情を理解するのが難しい。	他者の意図や感情に関すること	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 言葉（ことわざ、冗談等）の理解 <input type="checkbox"/> 身振りや表現の理解		<input type="checkbox"/> 人に伝えようとする意識が少ない。 <input type="checkbox"/> 教師や友達に、あまり関心がない。 <input type="checkbox"/> 身振り等の意味の理解や活用が難しい。	コミュニケーションの基礎的能力に関すること	<input type="checkbox"/> 伝えたい気持ちの育成 <input type="checkbox"/> 伝えたい内容の拡充 <input type="checkbox"/> 伝えるための手段の拡充
	<input type="checkbox"/> 何度も同じ注意を受ける。 <input type="checkbox"/> 衝動的な行動が抑えられない。 <input type="checkbox"/> 気持ちが急いで、失敗することある。	自己の理解と行動の調整に関すること	<input type="checkbox"/> 自分の得意、不得意なこと理解 <input type="checkbox"/> 自己理解から、行動を調整していく <input type="checkbox"/> 集団行動の中で状況に応じた行動		<input type="checkbox"/> 会話での語彙が少ない。 <input type="checkbox"/> 相手の話を受け入れることが難しい。 <input type="checkbox"/> 考えを整理して話すのが難しい。	言語の受容と表出に関すること	<input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて伝える <input type="checkbox"/> 相手の意図を受け止め、自分の考えを伝える
	<input type="checkbox"/> 場面や状況に応じた行動が難しい。 <input type="checkbox"/> ルールや決まりを守ることが難しい。 <input type="checkbox"/> 集団活動に参加することが苦手。	集団への参加の基礎に関すること	<input type="checkbox"/> 場の空気を状況から知る力 <input type="checkbox"/> 集団参加の手順や決まり <input type="checkbox"/> 集団活動へ積極的参加		<input type="checkbox"/> 生活上使う言葉や語彙の理解不足（物の名前、形容表現、抽象表現）。 <input type="checkbox"/> 文章の読解力が乏しい。 <input type="checkbox"/> 助詞等の理解不足。	言語の形成と活用に関すること	<input type="checkbox"/> 語彙の習得 <input type="checkbox"/> 概念の形成 <input type="checkbox"/> 文法の理解
環境の把握	<input type="checkbox"/> 物を見る時、顔や見る物をかたむける。 <input type="checkbox"/> 聞く力が弱い。 <input type="checkbox"/> 記憶力が弱い。	保有する感覚の活用に関すること	<input type="checkbox"/> 視覚、聴覚、触覚などの使える感覚を最大限に活用する力		<input type="checkbox"/> ICT、文字ボード等を活用したコミュニケーション手段に不慣れ。	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること	<input type="checkbox"/> コンピュータ等の電子機器の選択活用
	<input type="checkbox"/> 書字、音読、図形等が苦手。 <input type="checkbox"/> 指示を聞いて、自ら考え、判断して行動することが難しい。 <input type="checkbox"/> 音や触感などの過敏からパニックになる。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	<input type="checkbox"/> 感覚情報の適切な処理・対応 <input type="checkbox"/> 聞いたこと、見たこと、考えたことを記憶、判断、決定等の行動化 <input type="checkbox"/> 過敏要因に対する対応		<input type="checkbox"/> 話に割り込む、場違いな質問をする。 <input type="checkbox"/> 字義通りに受け取る。 <input type="checkbox"/> 場面や状況にあったやりとりが苦手（話し方、メモを取る、うなずく）。	状況に応じたコミュニケーションに関すること	<input type="checkbox"/> 場面や状況に応じたコミュニケーションスキル（聞き方・メモの取り方・質問の仕方・報告の仕方・話し方等）

B

☆ 各教科等の指導に当たって、
指導目標や指導内容の充実のための個別の指導計画
～下学年、知的障がいの教育課程等を基にした各教科の指導の場合～



知的障がいの教育課程を参考にした児童を引き継ぎました。指導してきた内容は分かるのですが、次に何を指導すればいいか悩むのですが…。個別の指導計画を引き継いでうまく活用できません。

【各教科等の指導に当たって～一人一人の実態等に応じた指導目標及び指導内容～】

平成29年6月に示された小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、次のように述べています。

特別支援学級における各教科等の指導に当たっては、適切かつ具体的な個別の指導計画を作成するものとする。また、各教科の一部又は全部を、知的障害者である児童（生徒）に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えた場合、**知的障害者である児童（生徒）に対する教育を行う特別支援学校の各教科の各段階の目標及び内容を基にして、個別の指導計画に基づき、一人一人の実態等に応じた具体的な指導目標及び指導内容を設定することが必要である。**

- * 下線は本資料作成に当たって福島県特別支援教育センターにおいて追記
- * (生徒) は中学校学習指導要領の際の表記

「確かな学習の履歴」で引き継ぐことが大切です。

小学校の当該学年の各教科を指導した場合は、学んできた内容や学ぶ内容については、各教科の学習指導要領で系統立てて記載されています。次に、何を学ぶのか、誰でも明確に分かります。

一方、知的障がいの各教科は学年で教える内容が記載されているわけではありません。**本人の実態に応じて、各教科で示された段階から選択・組織していかなくてはなりません。**つまり、学んできた各教科の段階の目標や内容が明確でないと、次に何を学ぶのか明確ではなく、「実態把握」に時間を費やすことがあります。

各教科のどの段階の目標や内容を学んだのかを明確に引き継ぎ、次の指導すべき段階等を基にして、どのように指導するかを個別の指導計画に記載し、指導する必要があります。



B

☆ 記入例

～知的障がいのある児童の教科及び下学年を教育課程で取り扱っている場合～

小学校3年生 1学期の例

	◎個別の指導目標	○指導内容・方法 ※手立て	●評価
国語 知	【知識及び技能・2段階】 ◎日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。 【書くこと・2段階】 ◎経験したことの中から伝えたいことを思い浮かべ、書くことができる。 【聞くこと・話すこと・2段階】 ◎体験したことなどについて、伝えたいことを考え、表すことができる。 ※一部、生活単元学習で指導	○身近なものの名前など、平仮名で表された語の読み方を声に出して確認し、覚えて覚える。 ○写真やイラストを指さして表す。 (国語)「作文を書こう」 (生活単元学習)「運動会をがんばろう」「図書館に行こう」 ※～することで・・・	●平仮名で表された語を読む学習に取り組み、カードで指さされた語を繰り返し読み、読むことができる。 ●自分が活動している写真を手掛かりにして、運動会の思い出について、絵や簡単な文で表すことができた。
	【数と計算/乗法：下学年対応第2学年】 ◎乗法の意味について理解し、それを用いることができる。	○倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を、乗法を用いて求める。 ○5の段、2の段、の構成の仕方を理解し九九を覚え活用する。 ※～を使用することで・・・	●5の段の構成では、5ずつ増えていることに気づき、5の段の九九を自分で計算したり、九九カードを使って友達と問題を出し合って答えたりすることで、正確に覚えることができた。
生活 知	【社会の仕組みと公共施設：2段階】 ◎図書館やバスの利用についてのルールやマナーを守って活動することができる。 【金銭の扱い：2段階】 ◎金銭の大切さや必要性に気づき、バスの運賃の支払い方を知る。	○図書館やバスの利用についてのルールやマナー、バスの運賃の支払い方法などを事前に確認する。 ○実際に利用することで、図書館やバスの利用方法を知る。 (生活単元学習)「図書館に行こう」 ※～を提案し・・・	下学年対応の教育課程でも、年間計画を受け、その子に応じて、どうきめ細やかに指導するか記載します。小・中学校学習指導要領を参考に、記入します。
体育	【走・跳の運動：第3学年】 ◎かけっこ・リレーで調子よく走ったりバトンの受け渡しをしたりすることができる。 【器械・器具を使ったの運動：第3学年】 ◎マット運動で、前転や後転などの基本的な技ができる。	○校庭や体育館で一定の速さで走る。 ○友達と一緒に全力で走り、リレーのバトンの受け渡しをする。 ○マット運動で前転や後転などに取り組む。	●リレーでは、友達を意識しながら走りきり、バトンをつなぐことができた。 ●「マット運動などの基本的な技について、自分から繰り返し練習に取り組むことができた。

知的障がいのある児童の教科のどの段階に基づいた目標に取り組む学習なのか、特別支援学校学習指導要領を参考に、はっきりと明記します。

各教科の段階の内容に基づき、具体的な指導内容や指導方法を記入します。

下学年対応の教育課程でも、年間計画を受け、その子に応じて、どうきめ細やかに指導するか記載します。小・中学校学習指導要領を参考に、記入します。

評価については、「個別の指導目標」に基づいて記入します。

知：「知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科」を取り扱っていることが分かるように記号を記載しています。

※各教科等を合わせた指導 (生活単元学習等) についての記入例です。

生活 単元 学習	<p>「運動会をがんばろう」で取り扱う教科等 【国語 (書くこと) : 2 段階、(聞くこと・話すこと) : 2 段階】 【生活 (予定・日課) : 2 段階】 【道徳科】【自立活動】 (自立活動の指導計画による) ※体育については、教科別に指導する</p> <p>「図書館に行こう」で取り扱う教科等 【国語 (書くこと)・2 段階】 【生活 (社会の仕組みと公共施設)・2 段階、 (金銭の扱い)・2 段階】 【道徳科】【自立活動】 (自立活動の指導計画による)</p>	<p>「運動会をがんばろう」では、運動会の日時、場所、参加種目を知り、教師や友達と一緒に運動会の招待状づくりなどの準備をすることで、運動会への参加意欲を高め、自分から運動会の練習や当日の活動に参加することができた。</p>
----------------	--	---

各教科等を合わせた指導の形態で指導を行う場合には、こちらに、取り扱う教科等の段階を明記します。

評価については、各教科で記入し、こちらには所見として、各教科等を合わせた指導での子どもの学びの姿を書いていく、という方法もあります。

基礎知識

「各教科等を合わせた指導」は、学校教育法施行規則第 130 条第 2 項に示されているとおり、「特に必要がある場合は各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。」としています。

つまり、各教科等の指導の形態であって、「生活単元学習」という教科ではありません。「生活単元学習」において、何を教えたかを説明できるように整理しておくことが大切です。

また、特別支援学校学習指導要領解説には、「教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要です。」と示されており、各教科の目標に基づいた評価をしていくことが大切になってきます。

* 詳しくは第 I 章 2 (5) ④『各教科等を合わせた指導～生活単元学習を例に～』(35p) をご覧ください

知的障がいの教科の場合は、どの段階を指導しているかを明らかにすることで、本人の「学習の履歴」がはっきりと継続されます！

ここで示したものは、あくまでも例です。各学校の実情に合わせて、活用しやすい形に検討していきましょう。

個別の指導計画

B 様式例

氏名

学年

	◎個別の指導目標	○指導内容・方法 ※手立て	●評価
国語			
算数			
生活			
図画工作			
音楽			
体育			

* 様式例は、福島県特別支援教育センターWeb サイトから Word 版をダウンロードすることができます。

C ☆ 教科等の指導における配慮の充実のための 個別の指導計画



小学校の学習指導要領の各教科の解説を読んだら、「障がいのある児童の指導に当たっては、個々の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫すること、さらに、その各教科の配慮について、個別の指導計画に記載し、引き継ぐことが必要です。」と書いてありましたが、どういうことですか？

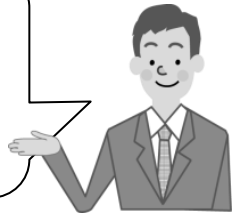
障がいのある児童等の各教科等の指導に当たって

平成29年7月に示された小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、次のように述べています。(高等学校にも同様の趣旨の記載があります。)

今回の改訂では、総則のほか、各教科等においても、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に当該教科等の指導における障害のある児童（生徒）などに対する学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが規定されたことに留意する必要がある。

* (生徒) は中学校学習指導要領の際の表記

小学校、中学校、高等学校の「学習指導要領解説」の各教科等に、個々の児童生徒の困難さに応じた各教科等における配慮を示しています。また、**学校において、こうした点を踏まえ、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐ必要性も指摘しています。**



各教科等の配慮については、第Ⅲ章1 ☆『障がいのある児童生徒などへの配慮』として、各教科等ごとにまとめているので、ご活用ください。

困難さをチェック!そして、教科等別に配慮を記入できる☆④『◎パターン』に(例)を示しています。

C ☆ 教科等の指導における配慮を記載する個別の指導計画 (例)

氏名		学年	
----	--	----	--

●本人が教科学習で抱えている制約や困難さ

①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することの困難さ
 (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難さ
 その他 (気づいたこと)

小・中学校学習指導要領解説 (各教科等) 上に記載*¹している障がい等による学習上の困難さを基にしており、本人が抱えている困難さの状態を考える視点として活用します。チェック式なので、見やすく、文章よりも本人が抱えている困難さを素早く情報共有できます。

障がい名等	
-------	--

*その他 必要な情報は、個別の教育支援計画に明記している。

●「きめ細やかに指導するために」各教科の困難さにおける指導内容や指導方法の工夫

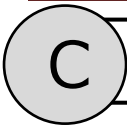
実施期間 年 月 日 ~ 評価 年 月 日 *配慮番号は上記の10の視点に対応

教科	配慮番号	●困難さ○指導の工夫の意図、手立て	評価
		<p>●困難さ○指導の工夫の意図、手立て</p> <p>全ての教科を書くのではなく、指導内容や指導方法に配慮が必要な教科を「きめ細やかに学習」するために活用する個別の指導計画です。中学校等の教科担任制では、回覧して記入し、活用している例もあります。</p>	<p>評価</p> <p>各教科の配慮が、子どもにとってどうだったかを検討します。さらに、今後も個別の指導として必要なことかどうかも書くと、引き継ぎの時にはっきりとします。</p>

全体的に共通する配慮事項

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 全教科に共通する事項を記載します。 </div>

* 1 小学校学習指導要領解説及び中学校学習指導要領解説の各教科等の内容に示されている学習活動を行う場合に生じる困難さを基にしています。



☆ 記入例

氏名	福島 花子	学年	5
----	-------	----	---

●本人が教科学習で抱えている制約や困難さ

①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することの困難さ
 (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難さ
 その他
 ○一斉指示の時に、伝わりにくいことがある。個別に伝えれば、伝わる。注意の集中を持続することが難しいため、指示を聞き逃している可能性がある。

障がい名等	ASD ADHD
-------	----------

*その他 必要な情報は、個別の教育支援計画に明記している。

●「きめ細かな学習をするために」各教科の困難さにおける指導内容や指導方法の工夫

実施期間 R×年 4月×日 ～ 評価 R×年 3月×日

教科	配慮番号	●困難さ○指導の工夫の意図、手立て	評価
国語	⑨	●読みの困難さ ○自分がどこを読むのかが分かるように、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用する。	・スリットを活用することで、自分で読みの練習ができた。今後も継続。
算数	① ⑩	●グラフの中の情報への注目の困難さ ○グラフでどのような部分に注目すればよいか、印を付けて確認するようにする。慣れてきたら、印を付ける部分を本人と確認し、自分で注目する点について気付くことができるようにする。	・棒グラフについては、目的に応じた情報を読み取ることができるようになった。他のグラフの読み取りについても今後も、継続していく。また、他教科でのグラフの読み取り等の関連も図るようにする。
体育	⑦ ⑧	●勝ち負けにこだわり、心理的に不安定になる困難さ ○状況に応じた感情のコントロールができるよう、事前に勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認する。	・事前に確認することで、負けた時でも、切り替えて活動ができてきた。徐々に、この配慮はなくても大丈夫。
家庭	⑩	●周囲の状況に気が散り、用具を安全に使うことの困難さ ○手元に集中して安全に作業に取り組めるよう、個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保する。	・個別スペースで安全に取り組むことができた。今後も継続。

全体的に共通する配慮事項

読み書きへの不安から、学習のまとめで、考えを記述する時に、心理的に不安定になることがある。口頭で、学習内容について確認していく。

その他、教育内容・方法については、個別の教育支援計画の合理的配慮を確実に実行していく。

個別の指導計画



氏名		学年	
-----------	--	-----------	--

●本人が教科学習で抱えている制約や困難さ

- ①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ
⑩注意の集中を持続することの困難さ
 (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難さ
 その他

障がい名等	
--------------	--

*その他 必要な情報は、個別の教育支援計画に明記している。

●「きめ細やかに指導をするために」各教科の困難さにおける指導内容や指導方法の工夫

実施期間 年 月 日 ～ 評価 年 月 日

*配慮番号は上記の10の視点に対応

教科	配慮番号	●困難さ○指導の工夫の意図、手立て	評価

全体的に共通する配慮事項

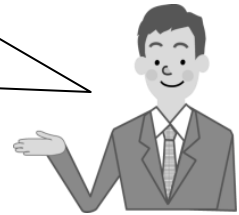
* 様式例は、福島県特別支援教育センターWeb サイトから Word 版をダウンロードすることができます。

D ☆ 小・中学校の通常の学級、高等学校の生活全般における計画 (例)



通常の学級担任です。教科への配慮というよりは、対人関係全般に、個別の指導が必要なのですが、どの形式がいいですか？

福島県特別支援教育センターで、以前から提示していたシンプルな形を提案します。
通常の学級は、自立活動を取り入れている訳ではありませんので、活用しやすい、引き継ぎやすいことが第一です。



個別の指導計画 (例)

〇〇立 〇〇小学校 個別の指導計画 (作成日 令和〇年〇月〇日)

氏名	郡山 次郎	学年	6年	生年月日		作成者	
指導の目標 (長期目標)	◎場面に応じた行動を知る。 ◎自分の感情のコントロールができ、友だちとのトラブルを減らす。						
領域	実態	短期目標	○手立て・取組の様子◆結果				
生活習慣	学校の準備に時間がかかり、母親が手伝っている。	「連絡帳」を見て、自分で準備することができるようにする。	○明日持ってくるものを「連絡帳」に書かせ、担任が点検する。 ・自分で書き写すことが習慣化した。 ◆週5～6回の忘れ物が週1～2回程度に減ってきている。 →今後も継続				
健康運動	特になし。	特にない場合もあります。					
社会性・対人関係・行動	グループ活動等で、自分の思い通りにいかない場面で、暴言をはく、暴力をする真似をする。	思い通りにいかない場面での対応の仕方を学ぶ。	○放課後の落ち着いた場面で、1ヶ月に1～2回程度本人と、場面に応じた行動、感情の調整等について話し合う。 ・「まあ、いいか。」と受け入れる姿も見られてきた。 ◆本人もだいたい場に応じた行動が身に付いてきて、トラブルが減ってきた。 →今後は、日常場面で意識した指導で十分。				
学習	概ね、学習は落ち着いて取り組んでいる。グループ活動等が課題。(→対人関係)	上記による。	上記による。				
事項特記							

D 様式例

〇〇立 〇〇学校 個別の指導計画 （作成日 令和〇年 〇月〇日）

氏名			学年			作成者		
指導の目標 (長期目標)								
領域	実態		短期目標		○手立て・取組の様子◆結果			
基本的 生活習慣								
運動・ 健康								
対人関係・ 社会性・ 行動								
学習								
特記事項								

* 様式例は、福島県特別支援教育センターWeb サイトから Word 版をダウンロードすることができます。

